

充てん工法

(1) 工法の概要

目地変状部に弾性シーリング材や水中パテを充てんする工法である。表面被覆工法同様、古い目地材などを完全に除去することがポイントである。

また、場合により断面修復工法（6.4.1 参照）と併用して施工する。

水中パテは、硬質で伸縮性が少ないため、二次製品などの目地間隔が小さく伸縮量の小さい目地に適用する。

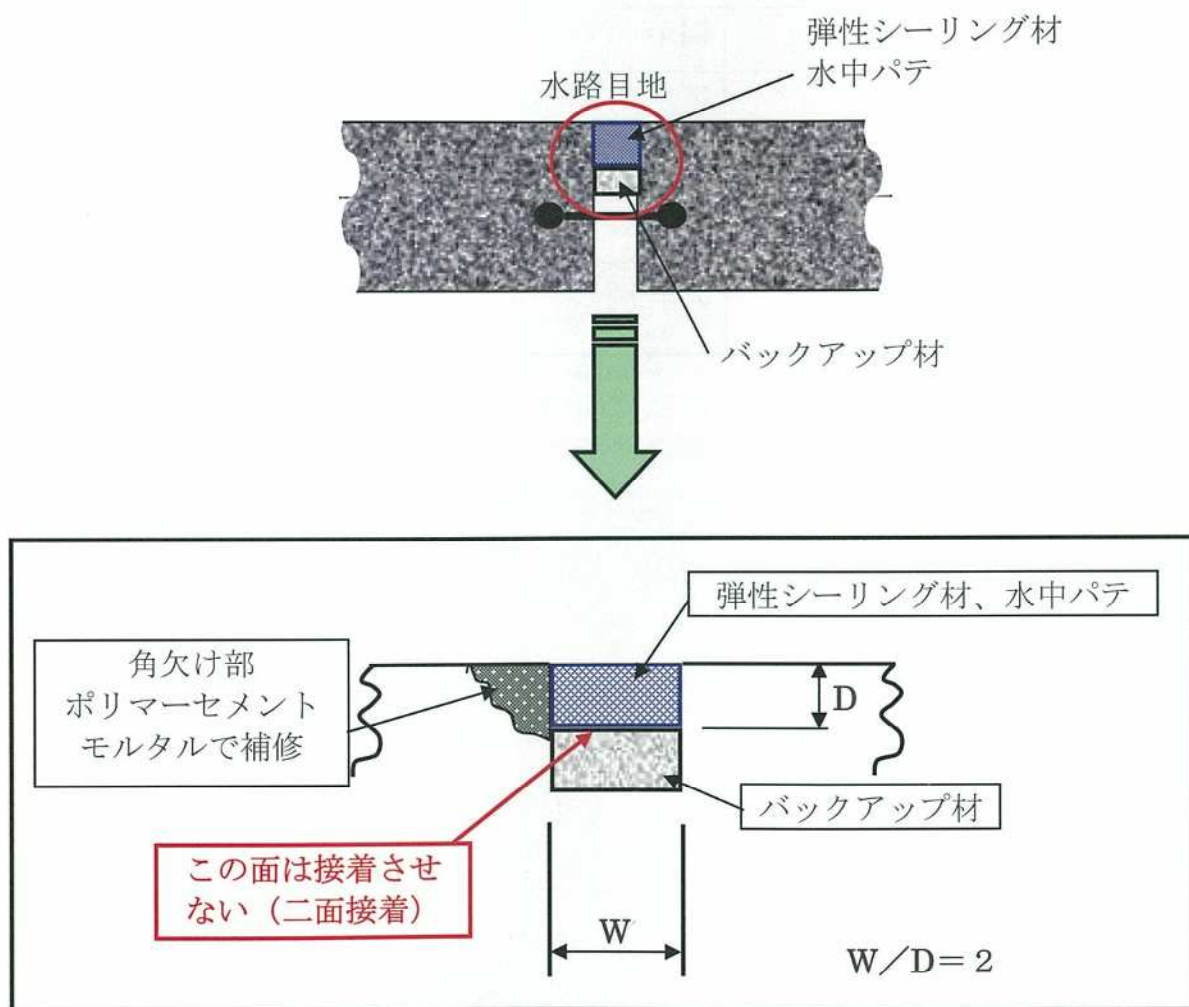


図 6.2.2-1 充てん工法（目地補修）概要図（上から見た図）

(2) 作業工程、使用機材及び作業内容

下地処理 (6.1 参照)  
古い目地の除去

充てん工法

ディスクグラインダー



除去状況



確実に除去することがポイント

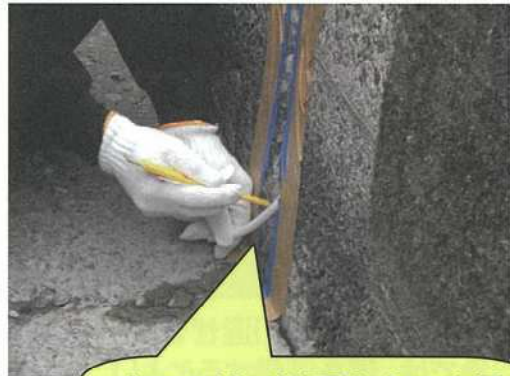
研削といしの取替え又は取替え時の試運転の業務には、講習修了証を保有する者が行う。また、実作業も講習修了証を保有する者が行うことが望ましい。詳細は6.2.1 (3) 留意点参照。

バックアップ材設置

バックアップ材



設置状況



充てん材が断面方向に奥深く入る場合には、バックアップ材を用いる。

次 頁 へ

弾性シーリング材は、「ウレタン系」、「シリコン系」、「変成シリコン系」などがあるが、重ね塗りが可能な「変成シリコン系」が使い勝手がよい。



充てん材施工  
弾性シーリング材

シーリング材など

プライマー

一成分形変成シリコン系シーリング材

充てん状況

マスキングテープ

充てん材施工  
水中パテ

水中パテ

水中パテは十分に練り混ぜる。寒冷地では、湯を準備するとよい。

充てん状況

塗布面が乾燥していること  
マスキングテープは充てん完了後直ちにはがす

水中パテは、硬質で伸縮性が少ないため、二次製品などの目地間隔が小さく伸縮量の小さい目地に適用する。



完了

完了 (弾性シーリング材)

完了 (水中パテ)

施工後、補修材料を指で強く押ししても指に付着しなければ通水可能

### (3) 留意点

#### 1) 材料選定上の留意点

- ① 目地の挙動に留意する。(水中パテは、硬質で伸縮性が少ないため、二次製品などの目地間隔が小さく伸縮量の小さい目地に適用する。)
- ② 施工条件(断水の可否)に留意する。
- ③ 弾性シーリング材は、塗り重ねが可能な「**変成シリコーン系**」が使いやすい。

#### 2) 施工上の留意点

- ① 古い目地材、接着剤、コンクリートの劣化部は、確実に除去する。
- ② 充てん材が断面方向に奥深く入る場合には、バックアップ材を用いる。
- ③ 弾性シーリング材を使用する場合は、下地が乾燥していることを確認する。
- ④ 仕上げの美観向上のため、マスキングテープを使用すると良い。マスキングテープは、シーリング材充てん終了後直ちにはがすこと。
- ⑤ 施工後、補修材料を指で強く押しても指に付着しなければ通水可能。
- ⑥ 水中パテは十分に練り混ぜる。寒冷地では、湯を準備するとよい。

### (4) 主要資機材

名 称	備 考
バックアップ材	ひび割れ幅、長さに応じてホームセンターなどで購入する。
弾性シーリング材 (変成シリコーン系)	ホームセンターで入手可能
シーリング材充てん用ガン	(コーキングガン)
ディスクグラインダー	取扱注意(講習修了証を保有する者が取扱う。)
ゴムベラ	幅 10cm 程度のもの
マスキングテープ	ガムテープ(布製)でも可
水中パテ	入手方法については都道府県土連に問い合わせる。